



平成28年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年12月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 精養軒

コード番号 9734 URL <http://www.seivoken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 酒井 裕

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括部長

(氏名) 清田 祐司

TEL 03-3821-2181

四半期報告書提出予定日 平成27年12月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成28年1月期第3四半期の業績(平成27年2月1日～平成27年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年1月期第3四半期	2,180	9.0	△64	—	△54	—	477	—
27年1月期第3四半期	2,000	△10.9	△133	—	△121	—	△173	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年1月期第3四半期	183.59	—
27年1月期第3四半期	△66.36	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭	%	円 銭
28年1月期第3四半期	4,327	—	3,150	—	72.8	1,211.34	—	—
27年1月期	3,777	—	2,665	—	70.6	1,024.59	—	—

(参考)自己資本 28年1月期第3四半期 3,150百万円 27年1月期 2,665百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年1月期	—	0.00	—	3.00	3.00
28年1月期	—	0.00	—	—	—
28年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

現時点において平成28年1月期の期末配当予想については、未定であります。

3. 平成28年1月期の業績予想(平成27年2月1日～平成28年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
通期	2,950	7.6	△16	—	0	—	517	—	198.79	—

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年1月期3Q	2,628,000 株	27年1月期	2,628,000 株
② 期末自己株式数	28年1月期3Q	27,206 株	27年1月期	27,206 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年1月期3Q	2,600,794 株	27年1月期3Q	2,600,808 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3頁「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や株高・円安を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、中国経済の減速が懸念されるなど、今後の動向は依然として不透明な状況下にあります。

飲食業界におきましても、販売競争が激化する中で、原材料費や人件費が高騰し、依然として厳しい経営環境にあります。

このような情勢下、当社は「中期経営計画142」に基づき、営業力・人材力の強化に取り組んで参りました。

営業力強化につきましては、営業推進部門による、周辺エリアの新規顧客の獲得や既存顧客の深耕等で、宴会誘致を中心に、積極的な営業活動を進めております。また、レストラン部門におきましては、様々な販売促進企画を実施いたしました。特にTBS日曜劇場「天皇の料理番」とのコラボレーションメニューを上野店及び一部店舗で展開し、お客様より高い評価を頂きました。

人材力強化につきましては、引続き、外部研修の活用など、人材育成に尽力いたしました。

また、店舗戦略におきましては、当該施設改装のため長期間休業しておりました「東京文化会館店(平成26年12月再開)」と「台東店(平成27年4月再開)」がリニューアルオープンし、今年度の売上に大きく寄与しています。「中期経営計画142」に掲げたスクラップアンドビルドは、概ね計画通りに推移しております。

しかしながら、今後も業界内競争、原材料価格の高騰、店舗整備の諸経費増加などにより、厳しい環境が続くものと予想されますが、この現実を真摯に受け止め、更に営業を強化し、収益改善に努めて参る所存でございます。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,180百万円(前年同期比9.0%増)となりました。営業損失は64百万円(前年同期は133百万円)、経常損失は54百万円(前年同期は121百万円)、四半期純利益は477百万円(前年同期は四半期純損失173百万円)となりました。

また、セグメント別の業績につきましては、下記のとおりであります。

(飲食業)

飲食業におきましては、上記の理由により、当第3四半期累計期間のレストラン部門の売上高は1,204百万円(前年同期比13.5%増)、宴会他部門の売上高は942百万円(前年同期比4.1%増)、飲食業全体の売上高は2,146百万円(前年同期比9.2%増)、営業損失80百万円(前年同期は148百万円)となりました。

(賃貸業)

賃貸業におきましては、安定的な賃貸収入の確保に努めております。この結果、当第3四半期累計期間の売上高は34百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益16百万円(前年同期比1.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は前事業年度末と比べ550百万円増加し4,327百万円となりました。流動資産は448百万円増加の1,801百万円、固定資産は102百万円増加の2,526百万円となりました。

流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金が467百万円増加したことによるものです。

固定資産の増加の主な要因は、投資有価証券が234百万円増加した一方で、有形固定資産が121百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は前事業年度末と比べ64百万円増加し、1,176百万円となりました。流動負債は67百万円増加の406百万円、固定負債は3百万円減少の770百万円となりました。

流動負債の増加の主な要因は、賞与引当金が29百万円、未払法人税等が51百万円それぞれ増加したことによるものです。

固定負債の減少の主な要因は、繰延税金負債が18百万円減少した一方で、役員退職慰労引当金が14百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は前事業年度末と比べ486百万円増加し3,150百万円となりました。この増加の主な要因は、四半期純利益の計上等で利益剰余金が470百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、当第3四半期累計期間において概ね計画通り推移しているため、平成27年9月11日に公表しました「平成28年1月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,163,348	1,630,448
売掛金	111,575	86,350
たな卸資産	42,234	46,550
その他	37,324	38,851
貸倒引当金	△1,100	△900
流動資産合計	1,353,380	1,801,300
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	648,879	544,496
土地	603,189	603,189
その他(純額)	90,152	73,198
有形固定資産合計	1,342,220	1,220,884
無形固定資産	7,436	6,434
投資その他の資産		
投資有価証券	997,332	1,231,398
その他	76,395	66,895
投資その他の資産合計	1,073,726	1,298,293
固定資産合計	2,423,382	2,525,610
資産合計	3,776,762	4,326,910
負債の部		
流動負債		
買掛金	54,457	71,198
未払金	124,383	110,427
未払費用	52,476	55,981
未払法人税等	1,638	52,590
賞与引当金	31,000	60,000
資産除去債務	3,081	-
その他	71,626	55,948
流動負債合計	338,662	406,145
固定負債		
退職給付引当金	496,305	499,573
役員退職慰労引当金	106,924	121,074
繰延税金負債	151,965	133,883
その他	18,173	15,777
固定負債合計	773,366	770,307
負債合計	1,112,028	1,176,453

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	131,400	131,400
資本剰余金	4,330	4,330
利益剰余金	2,253,714	2,723,392
自己株式	△20,508	△20,508
株主資本合計	2,368,936	2,838,615
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	295,798	311,842
評価・換算差額等合計	295,798	311,842
純資産合計	2,664,735	3,150,457
負債純資産合計	3,776,762	4,326,910

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年10月31日)
売上高	1,999,759	2,180,398
売上原価	871,482	928,540
売上総利益	1,128,277	1,251,858
販売費及び一般管理費	1,260,861	1,316,314
営業損失(△)	△132,584	△64,456
営業外収益		
受取利息	3,363	675
受取配当金	4,988	4,843
雑収入	4,582	4,704
営業外収益合計	12,934	10,222
営業外費用		
減価償却費	867	-
営業外費用合計	867	-
経常損失(△)	△120,517	△54,234
特別利益		
投資有価証券売却益	-	658,593
固定資産売却益	2,513	9
特別利益合計	2,513	658,603
特別損失		
固定資産除却損	3,843	331
減損損失	49,452	77,657
特別損失合計	53,294	77,988
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△171,298	526,381
法人税、住民税及び事業税	1,300	48,900
法人税等合計	1,300	48,900
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△172,598	477,481

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年2月1日至平成26年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	飲食業	賃貸業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,965,384	34,375	1,999,759
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	1,965,384	34,375	1,999,759
セグメント利益又は損失(△)	△148,417	15,833	△132,584

(注)セグメント利益又は損失の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

飲食業セグメントにおいて、閉鎖が確定した資産グループおよび営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループ等について、その帳簿価額を回収可能価額まで減損し当該減少額を減損損失として認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては49,452千円であります。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年2月1日至平成27年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	飲食業	賃貸業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,145,989	34,409	2,180,398
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	2,145,989	34,409	2,180,398
セグメント利益又は損失(△)	△80,011	15,555	△64,456

(注)セグメント利益又は損失の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

飲食業セグメントにおいて、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループ等について、その帳簿価額を回収可能価額まで減損し当該減少額を減損損失として認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては77,657千円であります。